

「人間ドックが『病氣』を生む」(光文社)という刺激的なタイトルの新著を出した。

「健康に縛られない生き方」というサブタイトル通りの提案なんです」

健康には神経質だった。

人間ドックは欠かさず、結果が出るまでは心配で、半病人状態。転機は五十九歳。肺に影が見つかり、フアイバースコープ挿入などきつい精密検査を受けた。

結果は「異常なし」。それで考えた。今後は老化で検査の「異常」は増える。そのたびにおびえる日々でい

としお **利夫さん**

わたなべ **渡辺**

「健康幻想」脱却を説く長
拓殖大学

いのか。欧米の学術調査で 々の悔いも背景にある。

肺がんで検診した人と、「現代人は病気にならな

していない人で死者の数に いことが生きる目的になっ

差がないことも知った。 ているようだ。老化をある

それなら、と還暦を期し がまま受け入れ、今の一瞬

て健康診断をすべてやめ 一瞬を人生の目標に向け懸

た。痛い、苦しい時以外は 命に生きることが大切な

病院に近づかないことにし では」と力を込める。

た、という。 一男一女は独立、夫人も

末期がんの母親を延命治 検診をやめた。山梨県出

療で苦しませた三十代の日 身。七十歳。(武田安弘)

20人



■老化を病と見違えず、今を懸命に生きよう